

# 大分 昭和通り・交差点四隅広場のリボーンプロジェクト

The Reborn Project of Showa Boulevard and Intersection Public Squares in Oita

大分市中心部にある昭和通りは舗装や歩道橋等の劣化、城址公園沿いクロマトズ区間の通りにくさが問題となっていた。また通りには四隅に広場を持つ珍しい交差点がある一方で、鬱蒼とした緑地が林立し、それら四隅広場での人の活動は皆無であった。大分県は昭和通りの再整備に着手し、人のアクティビティを促す歩道と交差点四隅の広場化を達成した。

整備前の四隅広場（南西エリア）



整備後



鬱蒼とした植栽と派手な舗装が景観的に問題視されていた交差点には周辺建物との関係性を考慮したシンプルな形状を念頭に、通行者が一休みできる石材のロングベンチを四隅全てに一体的に配備した。四隅各広場は近くの高校に通う生徒、通勤する会社員等の利用者の動線とともに、市内で盛んな野外音楽イベントでの利用、隣接ホテルの客室やロビーからの眺めを考慮したデザインが施されている。

## デザインのポイント

- ①歴史あるクロマトズを保全し、車線減によって歩道を広げる「車から人」のための街路整備が達成されたこと
- ②全国的にも珍しい交差点四隅の広場を一体的に再整備し、市民が快適に滞留できる交通結節点が形成されたこと
- ③協議会の調整によって整備方針が立案され、整備前後の調査から広場での活動や評価が確認されていること

四隅広場（南西エリア）

暗く人気の無かった交差点四隅は、見通しの改善と演出照明付きロングベンチの新設によって、防犯性と夜の雰囲気を楽しめる四隅広場にリニューアルされた。同広場の北西エリアは生徒達の交流場となるようウッドデッキ・ベンチが配され、南西エリアは以前からの大木や銅像を残しつつ、広場の整備が進められた。



北西エリア



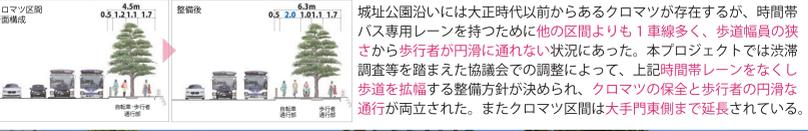
隣接ホテル・ロビー前からの眺め（南西エリア）



隣接ホテル客室からの夜景



クロマトズ区間 整備前 整備後



四隅広場（南東エリア） 整備前 整備後



南東エリアはイベント時の舞台性を考慮した芝生の丘、北東エリアでは美術館と連携したパブリックアートの展示ができるなど周辺の建物や活動との繋がりを持つ交通結節空間が誕生した。



歩道一般部 整備前 整備後

劣化した車線分離帯の運用で利用者の少なかった歩道橋、雑然としていた低木植栽を撤去し、自転車道を新設する等、通り全体の改修が達成された。また全区間でシンプルな横断防止柵やサインに取り替えられ、大通り全体のトータルデザインに結実している。さらに歩行者と自転車車が快適に通行できるよう、ヒール靴や車椅子に配慮した平板ブロックと骨材色（九州産）が選ばれるなど脱色アスファルトに舗装が全面改修された。



## ■ 整備前後における昭和通り交差点四隅広場の利用者動線・行動実態調査結果

【実施日 整備前:2017年10月29日(日)・30日(月) / 整備後:2018年10月14日(日)・15日(月) / ヒアリング調査:11月11日(月)・12日(月)】

